

* 研究目的

現代の地球環境問題において、持続可能な未来を維持する「環境教育学」の理論的研究と具体的実践を担う環境教育のプログラム開発がもためられている。とくにアジア地域では環境破壊が進んでおり、欧米的な自然保護志向による環境教育よりも、地域の環境、歴史・伝統文化の多様性と特殊性を考慮した内発的な環境教育の研究が必要である。

本研究では、原理的な環境教育学の研究を推進するとともに、多様な地域文化と風土に即して環境教育の指導者の人材育成をも視野に入れたモデルプログラムの開発を行なう。そのために、サイバーキャンパスの構築によって国際的な環境教育学の教材を開発し、アジア地域でのライフスタイルをめぐる諸課題を各国・地域・大学間で共有する。そして、その成果はアジアの人々のレベルに応じて教育効果が浸透するよう衣・食・住をテーマとしたライフスタイルの改善を目指し、「国連持続可能な開発のための教育の10年（ESD）／2005-2014年」の内実を具体的に展開する。

1) 環境教育プログラムの開発と人材育成の目的

持続可能な地球環境を維持するための活動として、まずアジア地域における大学間の「環境教育学」の充実をはかり、次にその理論的方法論をアジア地域の住民のライフスタイルにおいて応用・活用できるような環境教育プログラムの作成とそれによる人材育成を本研究の第一の目的とする。

2) 国際環境教育ネットワークの構築とサイバーキャンパスの設立の目的

申請者は、現在までに e-ラーニングによって、中国・北京大学、タイ・プラナコーン＝ラジャバト大学、マレーシア・マラヤ大学などの大学と連携を行ない、他方、国内では宮城教育大学、広島修道大学などの大学間および環境省、国土交通省、林野庁、大阪府などの行政機関とネットワークを構築し授業を実施してきた（「国際環境教育ネットワーク」「国内環境教育ネットワーク」）。それを発展させて、アジア圏におけるサイバーネットワークによってリアル・タイムな環境情報を得るとともに、生きた教材を活用する。このようにして、甲南大学においてアジア地域と国内のネットワークをリンクした「サイバーキャンパス」を設立することが第二の目的である。

3) ライフスタイルの変更の試み

サイバーキャンパスで扱う環境教育は、開発された環境教育プログラムにしたがって、アジア各地域性を活かした具体的な実践によって衣・食・住についてのライフスタイルの改善を試み、持続可能な未来のための環境教育を実施することが第三の目的である。

* 研究チームメンバーと研究課題

谷口 文章	甲南大学文学部	環境教育学の研究
久保はるか	甲南大学法学部	地球温暖化とアジアの環境政策
岡田 元浩	甲南大学経済学部	経済学史からみたアジアの労働環境
Shrestha, Manoj L.	甲南大学経営学部	ネパールの環境政策

小西幸男	甲南大学国際交流センター	環境法・政策と環境教育
藤原三枝子	甲南大学国際言語文化センター	異文化理解教育と環境教育
Chinatat	タイ・プラナコーン＝ラジャバト大学	タイの環境教育
Nagashinha	環境教育センター副センター長, プラナコーン ＝ラジャバト大学理工学部・学部長	
劉 兆榮	中国・北京大学環境学院 環境化学 准教授	中国の環境教育
Azizan Baharuddin	マラヤ大学教授	マレーシアの環境教育
林 其昺	台湾・国立政治大學財政學系	台湾・国立政治大學財政學系
谷 莊吉	高齢者ケアセンター甲南診療所 所長	環境の医学
清水芳久	京都大学大学院工学研究科附属 流域圏総合環境質研究センター	水環境の諸問題
浅野能昭	環境省 九州地方環境事務所長	国立公園をめぐる九州・北海道の環境政策
大久保規子	大阪大学大学院法学研究科教授	環境法・政策
渡辺りわ	神戸親和女子大学・大阪工業大学・ 大阪産業大学非常勤講師	